

地域密着サービス運営推進会議 出欠票

開催日時 : 令和6年11月28日(木) 13:50~14:50

場所 : グループホーム稗原 きんもくせいユニットホール

議題: 1.ご利用者状況

2.近況報告

3.行事報告

4.事故・ヒヤリハット事例報告

5.研修・委員会・訓練等

6.今後の行事・研修等予定

7.その他

8.意見交換

令和6年11月28日(木)開催 運営推進会議参加者

		出欠	備考
稗原コミュニティセンター長	様	○	
市森自治協会会長	様	○	
稗原地区社会福祉協議会会長	様	欠	
喜楽会会長	様	○	
稗原地区自治協会会長	様	○	
出雲市役所高齢者福祉課課長	様	○	
グループホーム稗原職員	(代表取締役)	○	
	(介護主任)	○	
	(管理者・介護支援専門員)	○	

RB
1/A

地域密着サービス運営推進会議 報告書

施設名：グループホーム稗原

日時：令和6年11月28日(木)

13:50~14:50

場所：グループホーム稗原 きんもくせいユニットホール

参加者：稗原コミュニティセンター長 様

市森自治協会会長 様

稗原地区自治会長 様

喜楽会会長 様

出雲市高齢者福祉課課長補佐 様

グループホーム稗原(代表取締役)

グループホーム稗原(介護主任)

グループホーム稗原(管理者・介護支援専門員)

<議題>

- 1.ご利用者状況
- 2.近況報告
- 3.行事報告
- 4.事故・ヒヤリハット事例報告
- 5.研修・委員会・訓練等
- 6.今後の行事・研修等予定
- 7.その他
- 8.意見交換

<議題>

1.ご利用者状況(令和6年11月25日時点)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男性	1名	3名	1名	1名	2名	8名
女性	1名	0名	2名	1名	2名	6名
計	2名	3名	3名	2名	4名	14名

平均介護度…3.21

平均年齢 …86歳(77~94歳)

- ・11/11より誤嚥性肺炎のため、男性1名の方が入院中です。

2.近況報告

現在、2ユニットで14名の方がご入居中です。

日中は1ユニット内にて、一緒に体操やレクリエーションを行いながらお過ごしいただいています。

冷え込みが厳しくなり、寒さを訴えられるご利用者様も増えました。衣服や室温、寝具等の調整を行い、温かく過ごしていただけるよう配慮してまいります。

また、空気の乾燥が強くなると風邪やそのほかの感染症のリスクも上がるため、感染症予防にも継続して努めてまいります。

3.行事報告

10月	クレープ作り・レクリエーション大会
-----	-------------------

10月22日にクレープ作りを行いました。生地を焼き、その上に生クリームやご自分のお好きな果物を乗せて、クレープを完成させられました。みかんやバナナ、白桃などが準備してありましたが、お好みの果物があると多めに取り、ご自分だけの好きな物が詰まったクレープを作り、嬉しそうにされているご利用者様もいらっしゃいました。普段食べ慣れないお菓子ではありましたが、柔らかく食べやすいため、皆様完食されていました。

また、様々なレクリエーションを準備し、体や頭を動かし楽しみました。

11月 日々のレクリエーション

11月には特別な行事はありませんでしたが、日々のレクリエーションにて様々なゲームを楽しまれました。毎日恒例となっている体操の他、ボール転がし、紙コップキャッチ、色合わせパズルなどを楽しまれました。写真にはありませんが、歌を歌ったりクイズをしたりと日々楽しまれています。

レクリエーションは、皆様の表情が明るくなり笑顔が多くなる大切な時間です。今後も工夫を凝らしながら継続していきたいと思えます。

4.事故・ヒヤリハット事例報告

○事故報告

・事例①78歳 男性 要介護2

(内容)

15時のお茶の時間になりご本人様をお呼びするため居室に向かうがいらっしゃらず、他職員にも声をかけ所在確認を行ったが発見できず。

施設内外を搜索、ご家族への報告、警察への通報を行う。搜索を開始し20分後、車にて搜索に出ていた職員よりご本人様発見の連絡あり。

(原因)

昼食後、ご本人様が共用スペースにあった他ご利用者様の衣類を持ち帰ろうとされていたところを職員が発見する。その衣類を返していただくようお願いしたところ、立腹され帰室されたところ所までは確認していた。普段よりご自由に施設内を移動し帰室されたりホールに出られたりされていたが、その後の行動を確認していなかったため、唯一施錠がしていなかった職員用の出入り口から離設されたと思われる。

(対処)

発見した旨をご家族、警察へ連絡。発見時受傷が複数あったため、ご家族様来所後、状況を説明し共に病院の受診を行う。骨折はなく、擦過傷と打ち身が複数とのことで、その後経過観察、治癒される。

(ご利用者様の状況)

打ち身や腫れが引くまでに2週間以上かかったが治癒される。その後も動作にお変わりなし。

精神面の変化も特になく、翌日より傷の痛みの訴えはあったが、落ち着いてお過ごしになられる。

(再発防止に向けて)

- ・職員用の出入り口を一時使用中止とする(その後、職員用出入口に繋がる戸の施錠管理を行うことで使用再開)。
- ・ご本人様を含めご自分で移動され、離設される可能性がある方の定期的な所在確認をチェック表を用いて行う。
- ・ご利用者様が精神的に不安定になられている時や感情的になられている時には特にご様子に注意し、見守りを強化する。

・事例②94歳 女性 要介護5

(内容)

清拭時、ご本人様の右肘周辺の皮膚が1cmほど剥離しているのを発見する。

(原因)

出来て間もない傷だったため、清拭中にできたものだと思われる。衣類のどこかの部位が職員の爪が当たったものだと考えられる。

(対処)

剥離部分の保護を行う。

(ご利用者様の状況)

4日後、患部が乾燥しそのまま治癒する。

(再発防止に向けて)

清拭は職員が主導で行う行為となるため、丁寧なケアを心がける。

高齢者の皆様は皮膚が乾燥し弱くなっていることを意識してケアに当たる。

・事例③88歳 女性 要介護5

(内容)

貼付薬を袋から出し日付を記入後、夕食と共に居室に運ぶ(居室対応のご利用者様であるため)。移動途中にお盆の中を確認すると、貼付薬が紛失しているに気づく。

(原因)

袋から出した後、その袋に戻さずお盆の上に置いた状態で移動したため。

(対処)

用意した場所から紛失が発覚した場所まで捜索するも発見できず。範囲を拡大し捜索するも発見できなかったため、別日のものを使用する。

(ご利用者様の状況)

お変わりなし。

(再発防止に向けて)

服薬を持ち運ぶ時には、細心の注意を払う。又、薬はご利用者様がいらっしゃる場所で開封し、すぐに服用・貼付などを行うことを徹底する。

・事例④92歳 女性 要介護3

(内容)

夕食後薬を準備した際、昼食後薬が残っているのを発見する。

(原因)

毎食時に服薬の準備をする容器の最終確認がなされておらず、服薬されていないのを見落としてしまったため。

(対処)

主治医に報告し、昼食後薬の服用を中止する。

(ご利用者様の状況)

お変わりなし。

(再発防止に向けて)

服薬のセットを行う際、ご利用者様の食後、服薬セットの容器を片付ける際などその都度残薬がないか間違いがないかを確認する。

○ヒヤリハット

・事例①89歳 男性 要介護2

(内容)

訪室すると、クローゼット前に押しピンが1個落ちているのを発見する。いつからあったのか不明。

(対策)

押しピンなどの鋭利な物の管理は、使用等を含め特に注意をする。

・事例②85歳 男性 要介護3

(内容)

居室で休んでいらっしゃるはずのご利用者様の居室内側から、ドンドンとかなり強い音がしたため訪室する。戸を開けると、歩行器を使用し入り口前に立っていらっしゃる。センサーマットをベッドサイドに設置しているが音が聞こえず、居室を確認するとセンサーマットが足元よりずれた場所に置いてある。

(対策)

基本的にセンサーマットは動かさない。また、帰室介助時にはセンサーマットの位置、鳴動の確認を毎回行い退室する。

5. 研修・委員会・訓練等

○研修

- ・11月にユニ・チャームの方を招いて、パットや紙パンツの適切な使用方法についての研修を開催しました。これまで正しいと思っていた使用方法が間違っていたこと、正しい使用方法を行うと吸収量も最大限にでき、ご利用者様ご本人や職員の負担も軽減できること、金銭的な負担も最小限に抑えられることを学びました。
- ・11月に高齢者虐待防止についての研修を行いました。虐待にはどのような種類があるのか、自身のケアや言動が虐待に繋がる行為となっていないか等振り返りを行いました。定期的に自身のケアを振り返ることで、虐待防止の意識付けを行っていきます。

○委員会

- ・11月に身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会を開催しました。身体拘束廃止や高齢者虐待防止のため、日頃から職員の意識付けが重要なこと、話し合いを定期的に行うことを再確認しました。

○訓練

- ・10月にBCPの机上訓練を行いました。地震発生想定にて、発生直後の職員自身の動きや停電時の対応、上下水道が使用できない状況の対応を考察し意見を出し合いました。普段から考えているようでも、具体的な状況になると、どのような対応をしたらいいのか、何を優先的に行えばいいのかかわからないという意見が多く聞こえました。研修から出た意見をもとに、避難時の行動やBCPの内容を精査し実践的なものにしていきます。
- ・10月に火災避難訓練を行いました。今回は夜間想定にて行い、最小限の人数での避難訓練を行いました。夜間は各ユニット1名ずつの体制であるため、避難にかなりの時間がかかってしまう

ことなど課題があり、シーツや毛布類を使用した避難の練習や工夫が必要だとわかりました。また、通報装置の使用方法も職員全員がわかるように、訓練の必要性を感じました。

6.今後の行事・研修等予定

○行事予定

12月：クリスマス会・忘年会

○ 1月：新年のお祝い

○研修等予定

12月：プライバシー保護の取り組みに関する研修

感染症・食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修

感染症に関する委員会開催

1月：倫理及び法令遵守に関する研修

ハラスメント防止に関する研修

7.その他

○10/23 JA 出雲女性部・やすらぎ会より、タオル類の寄贈をいただきました。

8.意見交換

○他グループホームも様々な事故やヒヤリハット防止のために工夫をされています。中でも一番起ってはいけないのが離設事故だと思います。離設され、交通事故等にあってしまう可能性が高いためです。今回の離設が起こった後にいくつかの対策を取られていますが、今後離設が起きないように十分にご注意ください。

→承知しました。ご利用者様の安全を守るため離設されないように対策を行い注意していきます。

・離設されたご利用者様は裸足で外に出られましたか。又、受傷されたと記載されていますが、どの部位を受傷されましたか。

→離設時にご自分の靴を履かれ、帽子を被り、金銭は入っていませんでしたが財布を持ち出かけられたようです。感情的になり突発的に出られたとは思いますが、ご自分の意思にて離設されたと思われました。発見時の受傷カ所は、左眉尻の打ち身、両肘周辺の擦過傷と打撲、両膝の打ち身がありました。ご本人様も「転んだ」と仰っていましたが、どこでどのようにという具体的な内容についてはわかられないご様子でした。

○現在のご利用者様の中で、入居期間が一番長い方と短い方はいつ頃から入居されましたか。

→一番長い方は平成 29 年にご入居されています。一番短い方は、今年の 9 月下旬にご入居された方です。

・一番長くご入居されている方は、要介護 5 の方ですか。

→いいえ。現在要介護 3 でいらっしゃいます。

○身体拘束廃止委員会とありますが、現在身体抑制という表現をされる行動もあるかと思えます。グループホームでは病院のように身体拘束についての同意書などがありますか。

→病院のようにご入居時にいただく同意書などはありません。ご入居中に自傷や他害などのリスクが高く、通常のケアでは対応できない時、他に対応の方法がない時等にご家族様に説明の上、同意書にサインをいただく形となっています。

・身体拘束まではいかない身体抑制などがありますか。

→グレーゾーンと言われる対応があると言われていています。例えばセンサーマットの使用に関してがそうです。ご本人様の転倒・転落防止のためであっても、一方から見るとご本人様の行動抑制に当たるといわれています。現在、センサーマットの使用をさせていただいてる方は複数いらっしゃいます。

○手作りの食事の頻度は変わりましたか。

→以前と変わらず木曜と日曜のみ手作りを提供しています。

○今回発生した事故報告は、うち 2 件が薬に関してのものだったようですが、事例③の貼付薬は湿布などのようなものですか。

→2、3 cm 大の気管支拡張のためのテープです。

・事例④の昼食後薬は飲まなくてもよい薬だったのですか。

→主治医に飲み忘れが起きたことを報告し、主治医の指示のもと服薬を中止しました。

○BCP の訓練をされたとのことですが、BCP にはご利用者のケア継続のため、最小限の職員数で被災した場合どのように事業所運営を継続するのか、その場合の人員確保に向けた取り組みという二つの目的があります。職員が少ない場合の想定にて研修・訓練を行ってください。

→承知しました。

・以前、別企業で 1000 ページに渡る B C P のマニュアルが準備してありましたが、原発事故が発生した際、全く役に立たなかったという事例がありました。机上のものだけにならないよう、実践に結び付けたマニュアルとしてください。

→承知しました。

○ご入居期間が長期間になると、要介護度はやはり上がっていきますか。

→はい、上がって行かれる方が多いです。

・認知症が進行するためですか。

→認知症の進行の場合もありますが、身体のご状態の変化の場合もあります。それまでご自分で歩いておられた方が車椅子移動になるなどです。

○現在コロナの感染等はありませんか。

→今年の8月に施設内感染が拡がりましたが、現在はありません。

○出雲医療看護専門学校の学生さんが実習にいらっしゃいましたか。

→はい、2名の方が10/3、4の二日間実習にいらっしゃいました。実習生は、ご利用者様とのコミュニケーションには戸惑っているご様子がありましたが、ご利用者様の方は若い世代との交流ができたため喜んでいらっしゃいました。

○事故報告でもありましたが、年を重ねると皮膚が弱くなりすぐに出血に繋がります。介助の際にもご注意ください。

▶今後、ケアを行う際には注意していきます。

○新規のご利用者様の紹介はどこからが多いですか。

→こころの医療センターからご入居されえる方が比較的多いです。その他、病院だったり居宅のケアマネさんからのご紹介等です。

○ハラスメントについての研修予定があるようですが、内部通報、外部通報共に体制を整備し、個人が特定できない仕組みづくりを行ってください。又、通報先は組織のトップではなくその下に当たるポジションの方にした方が良いと思います。通報があった場合、個人の裁量で判断するのではなく、委員会等仕組みの中で結論を出しトップに報告を上げるような組織づくりを行ってください。

→承知しました。いただいた助言を参考に体制整備を行っていきたいと思います。

以上